妙高山はスメール山の意訳

世田谷区　鎮西　昶（木田出身）

古代仏教の宇宙観に、宇宙の中心にはスメール山（せん）と言う高い山がそびえ立ち、日月はこの山を中心にして廻っていると説いている。その高さは八万由旬と言われる。ちなみに一由旬が約十三キロメートルとすると百万キロメートルにもなる。

梵音Ｓｕｍｅｒｕ山の音写で須彌山（しゅみせん）の漢字が当てはめられた。須彌山は七山七海これを環り、山の頂上には仏教と仏教徒を護る善神・帝釈天が住む。中腹には四天王、即ち東方には持国天、南方には増長天、西方には広目天、北方には多聞天が帝釈天に仕え護っている。そのスメール山（須彌山）の意訳が妙高山（又は妙光山ともある）である。

因みに、『妙高』の「妙」の字の成り立ちを漢和辞典で調べてみると、〈女性〉と〈おさない〉から成り立ち、年若い女性の美しさを表わしていて「不思議なまでに美しく優れているさま」とある。

また「高」は、高い楼閣の形を形どった象形文字であるが、高い、ひいては「そびえている」と記述されている。

話は少々逸れるが、須彌山よりも私の耳には須彌檀という言葉が馴染んでいる。お寺の本堂で仏さま（ご本尊）を安置してある檀のことで、須彌山を形どっている。

ところで、我が越後の妙高山は講談社現代新書『須弥山と極楽』に「妙高山は地名辞典によれば、古い呼称のなか山からきている。なか山を名香山と書いた段階をへて、これを音よみにして妙高山と書きかえられた」とある。仏教の日本への伝来が西暦五三八年である事から「名香山」から仏教の言葉に原点のある仏さまの住まれる世界の中心の山「妙高山」と書きかえられたのは、おそらく六世紀～七世紀頃であろうと思われる。

妙高山は単に越後の美しく高い山ではなく、古来より神仏の住まれる信仰の山として崇められた聖山であり、その根底にスメール山（須彌山）の仏語が意識されたに相違ない。

妙高の名前がこのような歴史的意味を持つことを知り「千古の白雪天をつく」妙高山に改めて敬虔なる気持を抱くのである。

合掌